

実績概要 (ホームページ掲載用)

研究又は活動のテーマ	地域活性化に資する「小さな拠点」形成に向けた実践的研究
助成事業者	第一工業大学
代表者	羽野 暁
<p>(目的)</p> <p>過疎・高齢化地域には、社会基盤整備の遅れから歴史的な土木構造物が現存することが多い。地域資源であるこれらの歴史的土木構造物を利活用して、過疎・高齢化地域の活性化に資する仕組みの構築が求められる。本研究では、社会実験を通して過疎・高齢化地域における活性化プロジェクトの一般化に向けた考察を実施した。</p>	
<p>(概要)</p> <p>山田橋を利活用した地域活性化プロジェクト6件を取り上げ、主に以下2件のプロジェクトについて世代間交流促進の観点を中心に地域社会におけるプロジェクトの波及効果を整理し、地域活動の核となっている山田小学校の地域教育活動を俯瞰しつつ活性化効果における相関を整理した。</p> <p>1. 山田橋灯籠づくりワークショップ</p> <p>山田橋の橋上を照らす灯籠を地域の子供たちと高齢者が一緒に制作するワークショップを開催した。山田小学校の全校生徒69名、地域住民15名が参加し、山田小学校の体育館において和紙を用いて灯籠のシェードを制作した。小学校の学年ごとに学習レベルに合わせた道具を用いて、シェードとなる和紙に野鳥や鮎、川エビ、花など山田地域の思い出の風景を描いた。</p> <p>2. 山田橋灯籠点灯式</p> <p>山田小学校の生徒および地域住民が制作した灯籠を、山田橋の橋上に設置し点灯するイベントを開催した。地域の内外から200名を超える参加者が来場した。灯籠点灯式は、山田地域の年間最大行事である「山田の里かかし祭り」の前夜祭として、山田校区コミュニティ協議会と連携して開催した。山田橋の橋上にワークショップにて制作した和紙灯籠を設置し、兩岸の橋詰広場、左岸側の西田の田の神様石像位置、山田の凱旋門前広場、および、かかし祭りのかかし展示会場の計4か所に、山田校区コミュニティ協議会が所有する竹灯籠を設置した。点灯式の当日は、来場者に地域内の灯籠めぐりを紹介する「山田の里灯籠めぐりマップ」を配布し、散策を誘発した。</p> <p>(考察)</p> <p>高齢化が進行する山田地域においては、山田小学校が地域の中心となり、地域の行事や祭事、日常の清掃に取り組むなど、地域コミュニティのつながりの場として機能している。山田小学校の取り組みに高齢者を中心とした地域住民が関わることで、子ども、保護者、高齢者が世代を越えて交流する機会が生まれている。このような相互関係の構築による地域コミュニティの連携強化のスパイラルアップは、過疎・高齢化地域における活性化プロジェクトの持続化における鍵となると考えられる。</p>	